

氣象

0984

軍令部

水路部

軍務局

供覧

柄

馬要第 二八四

明治甲午年正月十六日

馬公要部

海軍大臣官房

海軍大臣官房 海軍大臣官房 海軍大臣官房

別紙 海軍大臣官房 海軍大臣官房 海軍大臣官房

海軍大臣官房 海軍大臣官房 海軍大臣官房

海軍大臣官房 海軍大臣官房 海軍大臣官房

海軍大臣官房 海軍大臣官房 海軍大臣官房

海軍大臣官房 海軍大臣官房 海軍大臣官房

海軍大臣官房 海軍大臣官房 海軍大臣官房

海軍大臣官房 海軍大臣官房 海軍大臣官房

第一班

第二班

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

6-1-5 0985

馬

馬

明治四十四年五月十日

馬公軍設隊分隊長 堀井 馬治郎
馬公軍設隊司令 葉島 新太郎殿

澎湖島恒信風期間測力日数 調査ノ件

澎湖島北東恒信風ニ 澎湖島ニ於テ設計ノ作業

ニ事並ニ台湾海峽ニ於テ艦隊ノ行動等ノ關係

ノ計測ヲスルニ必要ナルニテ 考メテ亦又本年下半

考メテ同知ノ澎湖島恒信風期間測力日数ニ

關スル一覽ヲ調査収録ニ付 持寄ル事也

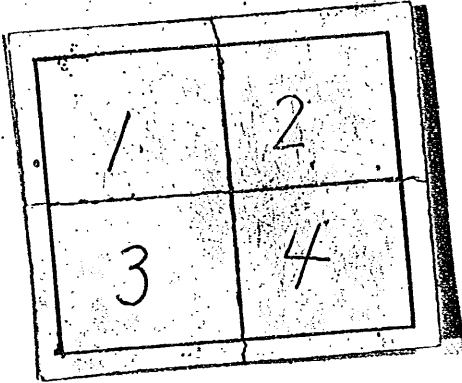
テ提出ス

(外圖長ノ長ノ係)

堀

0986

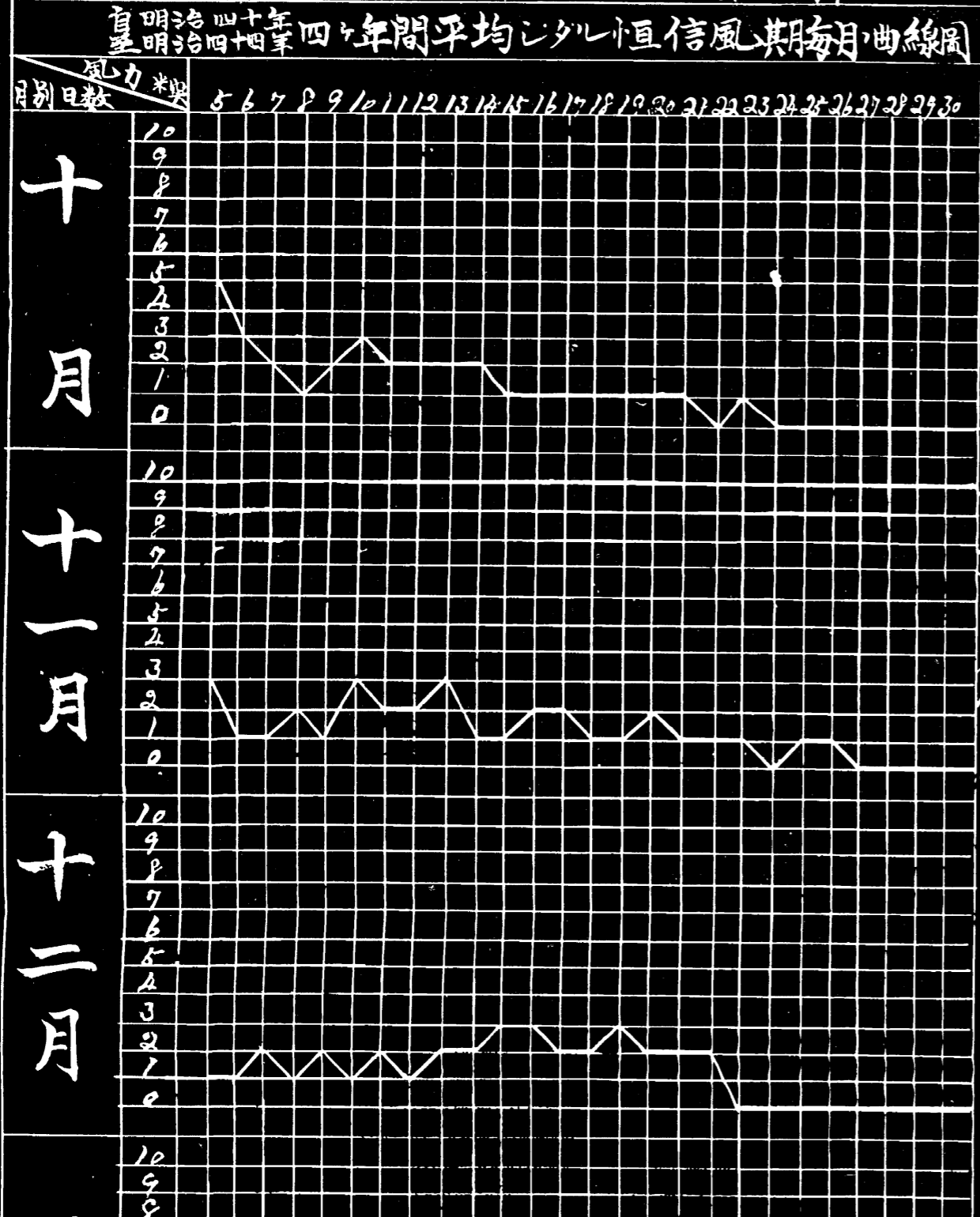
分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0987
0988
0989
0990

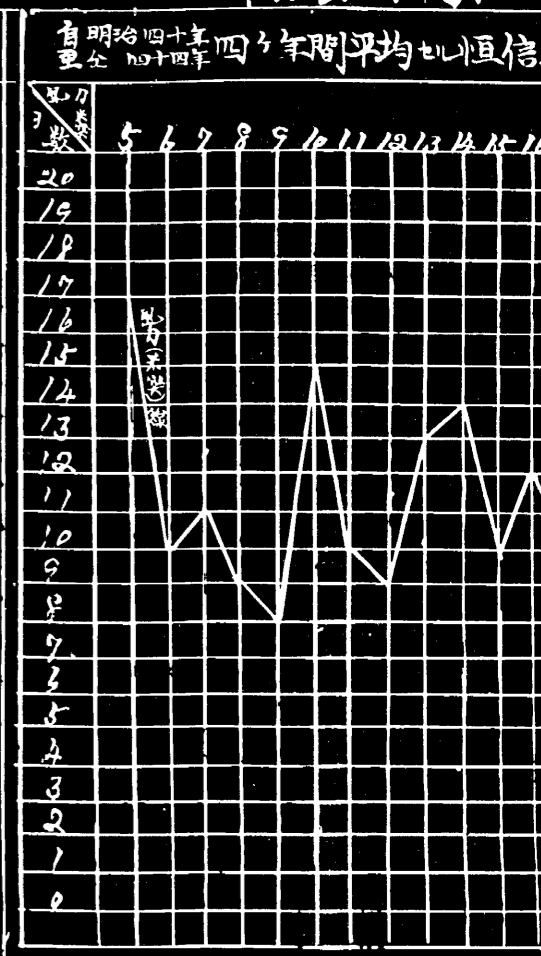
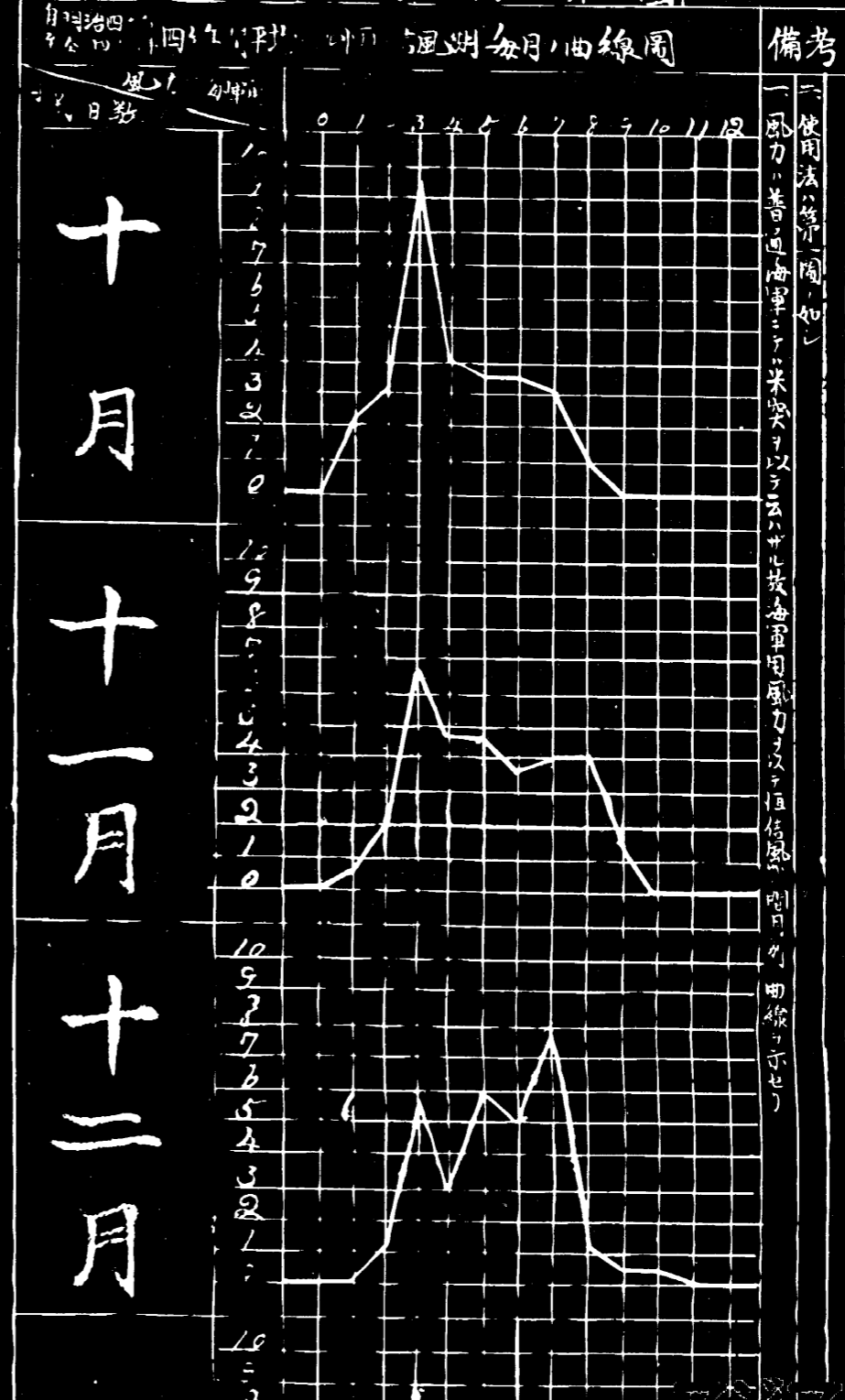
澎湖島恒信風力及日數一覽

澎湖島恒信風第一圖

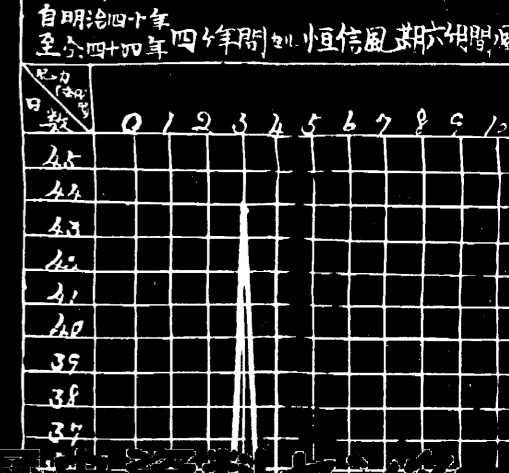


備考
 一、澎湖島東北恒信風期每月日數八五米突合併
 二、今或以此作爲標準
 三、澎湖島東北恒信風期每月日數八五米突合併
 四、今或以此作爲標準
 五、澎湖島東北恒信風期每月日數八五米突合併
 六、今或以此作爲標準

澎湖島恒信風第二圖

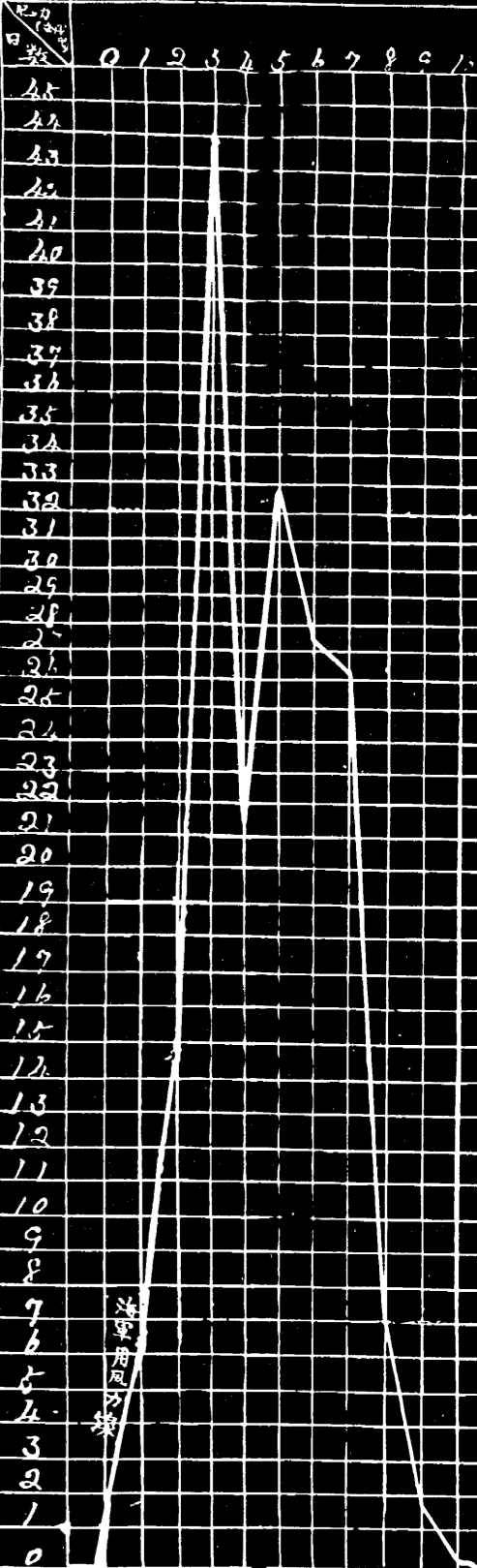


澎湖島恒信風第四圖

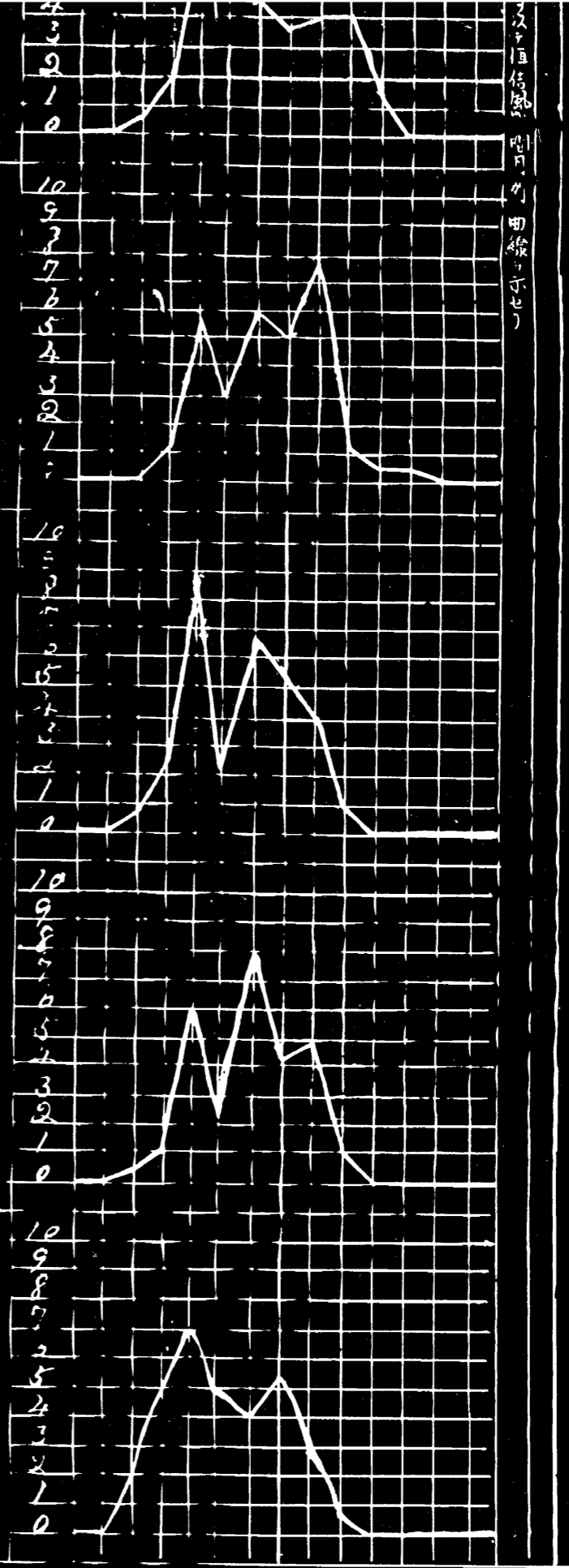


澎湖島恒信風第四

自明治四十年
至今四十四年 四年間の恒信風期六期間



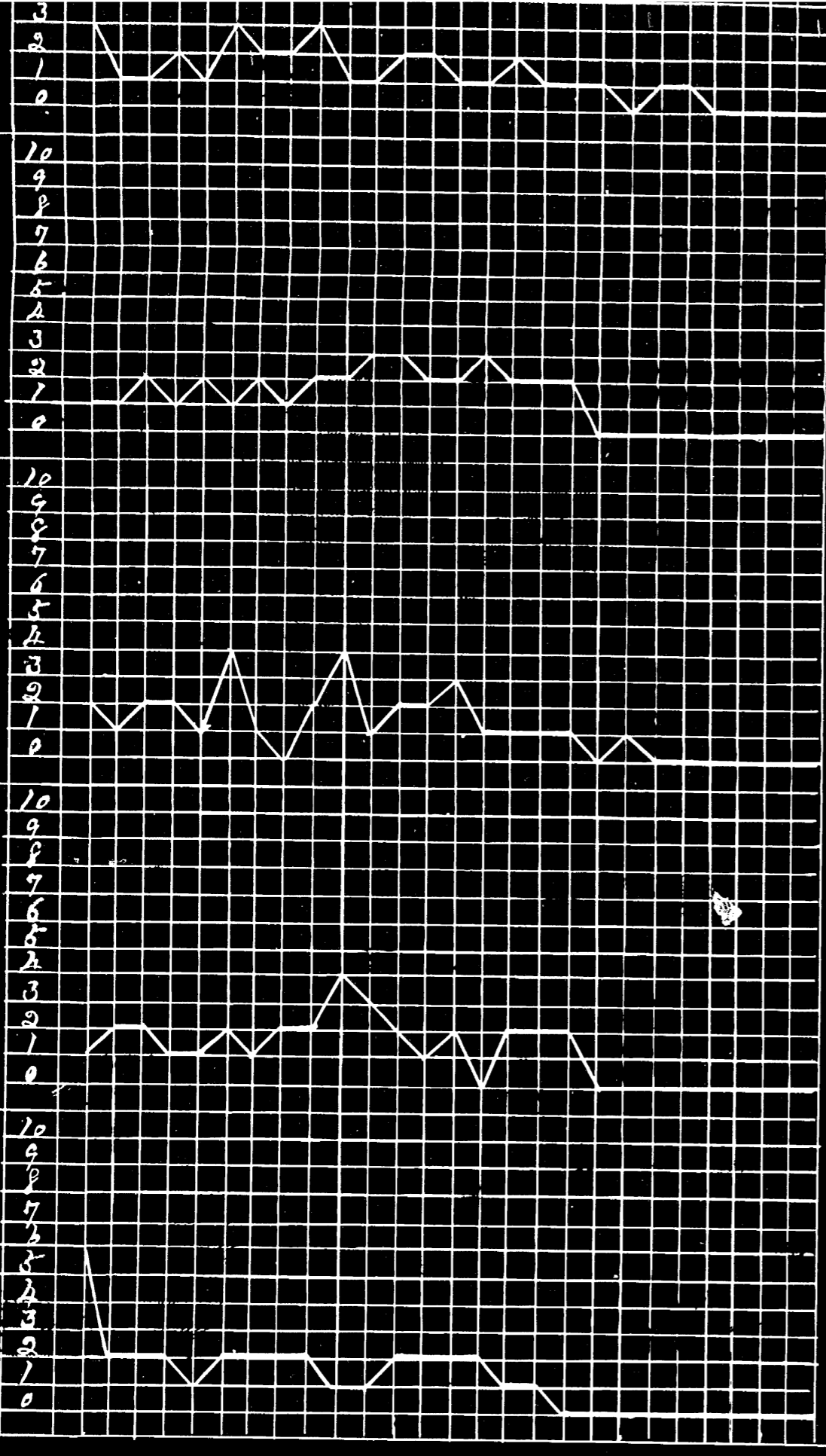
計算用風分集



一月
十二月
一月
二月
三月

日数四倍五入ヲセシモノ
セ、十月ニハ、日数四倍五入ヲセシモノ
日数二日数ヲ示セルモノ、今十月、中盤カ九米、尖ノ日数、後日間アルヤ、ヨリ下リテ、横線ノ二ニ當ルヲ以テ、日間アルヲ知ル
下向ニ始マリ、翌年三月、下向ニ終ルヲ以テ、九月、八條キ、十月、ヨリ、翌年三月、迄、モノヲ示セリ
合併シテ示ス

月
十二月
一月
二月
三月



〆〆〆

△處理ノ敏速ヲ期スルリ為總テ敬語ヲ省略ス此旨諒セラレ

1281

甲

土六
軍務局長



明治四十四年十一月二八日

通函第一八〇號

臺灣總督府通信局長心得角源

局員

軍務局長
海軍省

軍務局長板中曾次郎殿

氣象彙報彙報彙報一葉なる件

一 氣象彙報彙報彙報ノ件ニ関シ十一月十

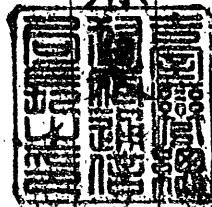
八日自軍用紙云の一端御返令等ノ趣

了取寄者ニ於テハ海上天氣彙報

一 取寄物程ヲ定メ奉幸四月一

軍第五〇一號三

臺灣總督府



0991

日ヨリ實施為難ハニ旬左様由
 了知相成否為念先程ハ甚者時
 高者海軍幕僚ヲ任テ若艦
 船ニ配任致置カ得共中参考
 ノ為ニ却送付ス

(明治十四年三月 日本郵政省印)

0992

海上天氣電報取扱規程

臺北測候所

0993

海上天氣電報取扱規程

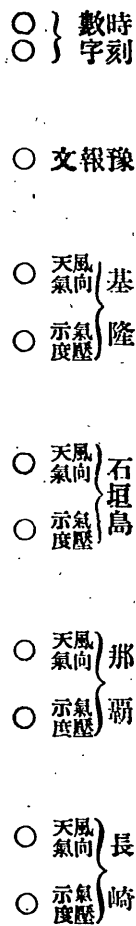
第一條 臺北測候所ニ於テ本島内地間ヲ往復スル定期船又ハ本島近海ヲ航行スル帝國軍艦ヨリ宮基角海岸局ヲ經由シ定時氣象電報ヲ受ケタルトキハ本規程ニ依リ其ノ艦船ニ向テ海上天氣電報ヲ發スヘシ

第二條 海上天氣電報ハ之ヲ豫報天氣電報及警報天氣電報ノ二種トス

豫報天氣電報ハ午前五時又ハ午後一時ニ於ケル向フ二十四時間内ノ天氣豫報及基隆外三ヶ所ノ風向、天氣及氣壓示度ヲ附録第一、第三、第四符號ヲ用井左ノ電報式ニ依リテ報知スルモノトス

豫報天氣電報式

數字二字 片假名九字



警報天氣電報ハ天候不穩ノ虞アリト認メタルトキ隨時警戒時刻、警戒文、低氣壓中心ノ位置、同
上氣壓示度及進行方向ヲ附録第二、第三、第五符號及第一圖ヲ用井左ノ電報式ニ依リテ報知スル
モノトス

警戒天氣電報式

數字二字

片假名五字

時刻
數字

警戒文

低氣壓
中心位置

同
氣壓示度上

同
進行方向上

○ ○

○

○ ○

○ ○

○

○

電文中ノ時刻ハ午前一時ハ〇一、午前五時ハ〇五、午後一時ハ一三、夜半十二時ハ二四、ト記ス

ヘシ

發信者臺北測候所名ノ記號ハ(タソ)トス

附 則

第三條 本規程ハ明治四十四年四月一日ヨリ實施ス

0995

第一符號 豫報文

符號	豫報文
イ	九州臺灣間天候一般ニ平穩ナリ
ロ	海上多少風雨アルモ暴風ノ虞ナシ
ハ	天候平穩ナルモ臺灣近海ハ漸次季節風強烈ニ向フ模様アリ
ニ	臺灣附近季節風吹クモ甚シキコトナシ
ホ	臺灣附近季節風強烈ナリ
ヘ	沖繩以南季節風強烈ナリ
ト	臺灣附近季節風吹クモ漸次靜穩ニ向フ模様アリ
チ	臺灣附近ハ平穩ナリ
リ	臺灣附近ハ多少ノ風雨アリ
ス	臺灣附近ハ多少ノ風雨アルモ漸次靜穩ニ向フヘシ
ル	九州附近ハ平穩ナリ
ヲ	九州附近ハ多少ノ風雨アリ
ワ	九州附近ハ多少ノ風雨アルモ漸次靜穩ニ向フヘシ
カ	臺灣附近ハ多少ノ風雨アルモ九州附近ハ平穩ナリ
ヨ	九州附近ハ多少ノ風雨アルモ臺灣附近ハ平穩ナリ
タ	沖繩附近ハ多少ノ風雨アルモ甚シキコトナシ

0996

ハ	ロ	イ	符號
東ノ風	北東ノ風	北ノ風	風向
同	同	晴	天氣
ヲ	ル	ヌ	符號
東ノ風	北東ノ風	北ノ風	風向
同	同	曇	天氣
ナ	子	ツ	符號
東ノ風	北東ノ風	北ノ風	風向
同	同	雨	天氣

五

第四符號

風向天氣

ヲ	ル	ヌ	リ	チ	ト	ヘ	ホ	ニ	ハ	ロ	イ
七四一	七四〇	七三八	七三六	七三四	七三二	七三〇	七二八	七二六	七二四	七二二	七二〇
											以下
ウ	ム	ラ	ナ	子	ツ	ソ	レ	タ	ヨ	カ	ワ
七五三	七五二	七五一	七五〇	七四九	七四八	七四七	七四六	七四五	七四四	七四三	七四二
ア	テ	エ	コ	フ	ケ	マ	ヤ	ク	オ	ノ	井
七六五	七六四	七六三	七六二	七六一	七六〇	七五九	七五八	七五七	七五六	七五五	七五四
ン	ス	セ	モ	ヒ	エ	シ	ミ	メ	ユ	キ	サ
不明	七七八	七七六	七七四	七七三	七七二	七七一	七七〇	七六九	七六八	七六七	七六六
	以上										

0998

第五符號

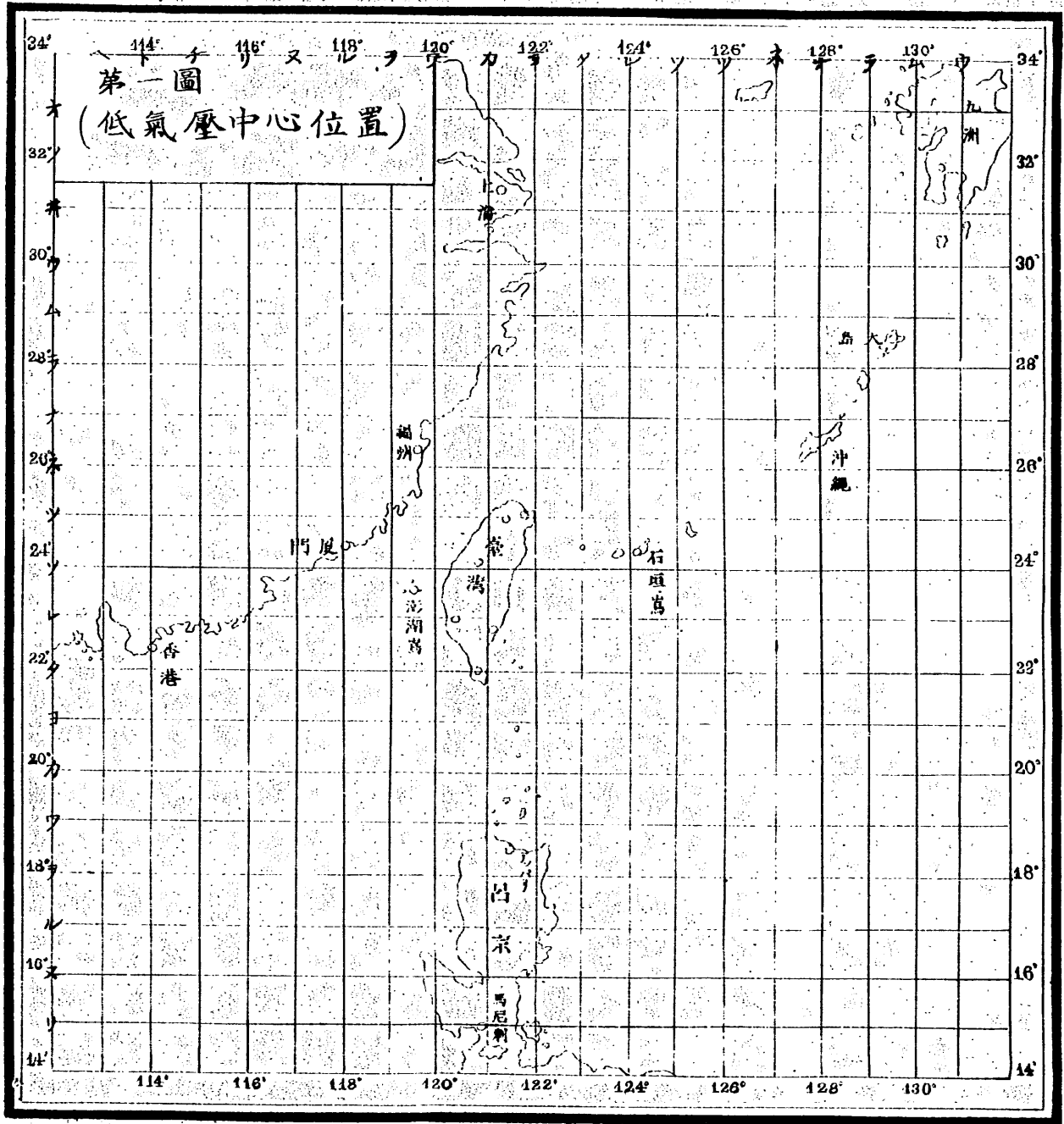
低氣壓中心進行方向

イ	北ニ進ム	符號	低氣壓中心進行方向
ロ	北ニ進ム漸次北東ニ轉向スヘシ		
ハ	北々東ニ進ム		
ニ	北東ニ進ム		
ホ	東ニ進ム		
ヘ	西ニ進ム		
ト	西南西ニ進ム		
チ	南西ニ進ム	符號	低氣壓中心進行方向
リ	西ニ進ム漸次北西ニ轉向スヘシ		
ヌ	西北西ニ進ム		
ル	北西ニ進ム		
ヲ	北々西ニ進ム		
ソ	進行方向未詳		

ニ	南東ノ風	同	南東ノ風
ホ	南ノ風	同	南ノ風
ヘ	南西ノ風	同	南西ノ風
ト	西ノ風	同	西ノ風
チ	北西ノ風	同	北西ノ風
リ	靜穩	同	靜穩
ク	電報未達	同	電報未達
ヲ	南東ノ風	同	南東ノ風
カ	南ノ風	同	南ノ風
ヨ	南西ノ風	同	南西ノ風
タ	西ノ風	同	西ノ風
レ	北西ノ風	同	北西ノ風
ソ	靜穩	同	靜穩
ラ	南東ノ風	同	南東ノ風
ム	南ノ風	同	南ノ風
ウ	南西ノ風	同	南西ノ風
ヅ	西ノ風	同	西ノ風
ノ	北西ノ風	同	北西ノ風
オ	靜穩	同	靜穩

0999

第二字



第一字

豫報天氣電報ノ例

電文

○五ヲヌアルサルアムエ

譯文

午前五時豫報天氣電報

九州附近ハ多少風雨アルモ漸次靜穩ニ向フヘシ

基 隆 北ノ風曇 (第四符號) 氣壓 七六五耗

石垣島 北東風曇 (同上) 同 七六六耗

那 覇 北東ノ風曇 (同上) 同 七六五耗

大 島 南ノ風雨 (同上) 同 七六三耗

(第一符號)

(第二符號)

(同上)

(同上)

(同上)

七

警報天氣電報ノ例

電文

一五ムツ子ヘリ

譯文

午後三時警報天氣電報

沖繩附近天候甚タ險惡ノ虞アリ

(第二符號)

低氣壓中心ハ北緯二十五度東經百二十七度ノ邊ニアリ

(第一圖)

最低氣壓七三〇耗

(第三符號)

低氣壓中心ハ西ニ進ム漸次北西ニ轉向スヘシ

(第五符號)

八

1002

1003

便宜必要と云ふ船船トノ可ニ天候
ノ向合又ハ警報ノ通報等ヲ交換スル
トニ止メ置カス事案中ノ了却ハ成
考ある由ク答ス

明治三十二年

第五〇一號

軍務局長 局員

案

明治四十四年十月十八日 軍務局長

朝鮮總督府通信局長官宛 他田十三郎

臺灣總督府通信局長宛 下村の報告によります

氣象電報交換の件

關東都督府觀測所、於てハ中央氣象台海上
氣象電報規定に依り無線電信海岸局ヲ
外シテ由軍艦船ト氣象電報ヲ交換ニ至ル
令都督府民政部ヲ照會有之候事貴府

雜
雜
起業務

海
軍
志士

1006

乙

海軍

此際取纏より其系統致度修築は希望の有
無折返る由報を得る
右照屬ス

備考

気象観測通報規程第15条亦項ニハ
無線電信装置ヲ有ル艦船ハ航海中海上気象ヲ測リテ
海岸局ト通信ヲ交換スル其ノ取扱ハ中央気象台或
空ノ海上気象通報規定ニ依リモトスルナリ
右海岸局ニシテ右15条制定ノ當時本邦内地ノ
海岸局アリシヲ以テ解任上関東州 松野 多摩 由岸
局ヲモ念カリトスルナリ

(花崎)

起案加二

明治四十四年十月十八日
起案者 捺印 小牧 九月十日 發符 發印 小牧 捺印 小牧

主務 軍務局長 局員

大臣

次官



參事官

副官



小牧



海軍



電案

明治四十四年十月十八日 陸軍大臣

關東都督府民政長官宛

貴府海岸局ト海軍艦艇リ氣象電報

交換方異存ト

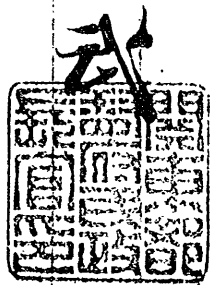
軍務局

供覽

關照第二二六八號

大正國民政府答曰大孤山、各條電傳海
岸局ノ電報ノ取付ノ中、中央氣象臺
海上氣象電報規程ニ依リ該海岸
局ノ經由者海觀測所ト各船ト各
氣象電報ノ交換及電報ノ降ノ各
事ヲ取付此後及此ノ旨也
昭和十一年十一月廿日

軍務局局長 武



海軍次官 財部 彪 殿

官房文書課長 櫻井

十一月十日 官房文書課

官房第三九號

在好月日ハ、ア、ク、ハ、自、多、可、及

程平仲の己亥の書
物名を記し
原本
校多は
今
彦ら
得
て
中
修
ら
れ
也

軍第一八三號

軍務局長

柄

局員

中

榮

明治四十四年五月十八日

軍隊内

馬場及奥線電信機備置船隻

(先軍中一八二號)

海上秀氣電報所取扱品中正誤一件

本月八日軍中一八二號ヲ以テ送付片海上秀氣電報

所取扱品中七頁未送付片大嶋ハ長崎一誤ヲ付訂正片

通知有之片

右通知ス

柄

花崎

本

海

軍

示

支

雜

1012

号外

明治四十四年九月九日

吉井台湾総督府海軍副官

海軍大臣官房

号外

軍務局

別紙通し台北測候所ヨリ通知越レ矣条

日表并一脚踏送付致置キ矣今規則中脚踏訂正

相成度

右通知ス

海軍 四十九

九十六

1013

臺北測第九四號ニ

豫テ御配附ニ及テ海上天氣電報取扱規程
第七頁末行ノ大島ハ長崎ノ誤リトス依テ右
御訂正有之度矣也

明治四十四年九月八日

臺北測候所

海軍幕僚

御中

<p>軍務局 八二號</p>	<p>（別紙一冊添）</p>	<p>其旨配付了</p>	<p>在規程草案中總務府海軍省課長より送付越</p>	<p>海上天気電報取扱規程ノ件</p>	<p>專使電報裝備軍艦運送の事 完</p>	<p>四十四年五月八日</p>	<p>馬公要港部</p>	<p>軍務局</p>	<p>軍務局長 柄</p>	<p>局長 中野</p>	<p>公教</p>
--------------------	----------------	--------------	----------------------------	---------------------	---------------------------	-----------------	--------------	------------	---------------	--------------	-----------

海軍

備前

備前

マ

マ

松

松

ク

備前

利根

和泉

新高

壹岐

松江

龍田

滿州

豊橋

口口 橋立

サヤ 筑摩

クク 千代田

津口 香取

サヤ 沖島

サヤ 葛城

サヤ 千早

クク 姊川

クク 轉崎

口口 宗谷

量秋 矢矧

サヤ 須磨

マ 見島

加持部 大和

サヤ 最上

クク 淀

クク 龍谷

口口 津輕

クク 明石

松平 徳川 武蔵

サヤ 龍谷

計六十一通

海軍

宿時

1017

29

✓不甲

海軍

雁山丸

橋中丸

現海丸

関東丸

板橋丸

栗橋丸

猿橋丸

淀橋丸

計五通

合計馬要共六十七通五月八日發送済

花 40

85 1018